
【ソフト名】	財務3表シミュレータ free エクセル Excel
【登録名】	fs3sm_090free.zip
【Ver】	0.90
【著作権者】	Terrapy 寺田裕司
【動作環境】	Windows7/8/8.1, Excel2007～2013
【製作月日】	2015/11/12
【ソフトウェア種別】	フリーウェア
【転載条件】	内容を変更しなければ可
【掲載条件】	事前連絡不要、事後報告いただければありがたい。

★ kindle 本『財務3表を動かして完全理解 エクセル Excel』 (問題数 限定版)

内容説明

財務3表をシミュレーションするソフトです。

kindle 本のテンプレートと同じ機能があります。

マクロを有効にして開く必要があります。

問題数を「入門1」8取引に限定してます。

kindle 本のテンプレートには、「入門2」(13 取引)「基礎」(20 取引)と4倍以上の問題があります。

★ 本ドキュメントでは財務3表についての解説を省いています。

これは、次のサイトに公開する予定です。

超簡単グラフ <http://excelcharts.biz/ultimate/>

★ 本ブックの制限

- ・ ワークシートの保護をして、入力できるセルを制限しています。
- ・ マクロのコードの表示を保護しています。

※ Kindle 本のサンプルには、一切の制限がありません。

同梱ファイル

「fs3sm_090free」内のファイルには、次のファイルが含まれます。

- ・ 財務3表シミュレータ.pdf … 本ソフトの説明
- ・ 財務3表シミュレータ 090free.xlsm … 財務3表のシミュレータ

作者連絡先

【作者】 Terrapy 寺田裕司

※ご意見・お問い合わせ先

Excel グラフの mail : contact@excelcharts.biz

Excel グラフのサイト : <http://excelcharts.biz/>

◇主な制作実績

詳細 <http://excelcharts.biz/book/>

● マクロを実行できる状態でブックを開く

Excel の初期設定では、マクロを含むブックを開いただけではマクロを実行することができません。ここでは、マクロを実行できる状態でブックを開く方法について解説します。

◇ Excel2007

初期設定では、マクロを含むブックを開くと画面の左上部に警告のメッセージが表示されます。このとき、[オプション]ボタンをクリックし、[このコンテンツを有効にする(E)]を ON にして[OK]ボタンをクリックします。

◇ Excel2010/2013

初期設定では、マクロを含むブックを開くと画面の左上部に警告のメッセージが表示されます。このとき、[コンテンツの有効化]ボタンをクリックします。

3. マクロの実行方法について

マクロは実行できる状態でマクロを含むブックを開いていますと、Excel のリボンから実行することができます。

◆マクロを実行する

ブックに含まれているマクロを実行するには、次のように操作します。

- (1) [開発]タブにある[マクロ]ボタンをクリックします。
- (2) 「マクロ」ダイアログボックスにある[マクロ名(M)]の一覧表から目的のマクロを選択し、[実行(R)]ボタンをクリックします。

◆エラーが発生した場合

マクロの実行時にエラーが発生した場合は[終了(E)]ボタンをクリックし、マクロの仕様通りの操作を行っているかを確認します。

Chap.1 本シミュレータのコンセプト

シミュレーションをしたいけど手間がかかる

財務3表を理解するためにシミュレーションをしたいけれど、手書きをしたり Excel に

手入力したりするには手間がかかります。必要なことがわかっている、時間をあまりかけたくないのが決算書の読み方ではないでしょうか。

Excel のシミュレータで手間いらず

そこで、Excel の自動色分け機能などを使って、取引が財務3表に与える影響が見える化するシミュレータを開発しました。ワークシート上にあるスクロールバーをクリックするだけで見える化する取引を選択することができます。手間をかけずに短時間でシミュレーションが完了します。

[illegible]

▲取引の見える化

2段階に分けてスッキリ理解

取引「事務用品を現金 15 万円で購入する」から財務3表に飛ぶと分かりにくいと思います。本書では、「事務用品費の増加、現金の減少」のような科目名と増減に取引を変えてから、財務3表に転記するという2段階で解説しています。

穴埋め問題にして完全に理解する

さらに、本書では科目名や科目の転記先の金額を空欄にした問題を用意しています。この穴埋め問題を解くことで分かっていない部分が明確になりますので、知識を完全にすることができます。科目の選択画面を使って、キーボードから入力する手間を省くことも可能です。

Chap.2 取引の見える化と2段階で理解する

取引が財務3表に与える影響を理解するには、1 つひとつの取引をわかりやすく表示することが必要です。そこで、本シミュレータでは取引ごとに影響する金額を分けて表示して自動色分けすることで、財務3表に対する取引の見える化を実現しています。さらに、

科目の選択画面を用意していますので、手入力する手間がなくシミュレーションを実行することができます。

Sec.1 1つひとつの取引をわかりやすくする

1つひとつの取引がどのように財務3表へ反映されるかを明確にするために、本シミュレータは取引を科目の増減とその転記という2段階に分け、1つの取引とその影響を色分けし、その金額を「今回」列に個別に表示しました。

1. 2段階で理解する

取引から一気に財務3表への反映を学ぶ方法もありますが、会計を勉強していないと難しい感じがします。このため、本書では次の2段階で解説します。

(1) 取引から財務3表の科目名を選ぶ

取引が財務3表に与える影響を日本文の外国語への翻訳にたとえると、この段階は単語のみを翻訳することです。ワークシート上では、取引データ表にある科目名と金額のセルが緑色に塗りつぶされます。

(2) 財務3表への転記

翻訳にたとえると、この段階は翻訳した単語を文法にしたがって単語を並べ替えることです。ワークシート上では、転記された科目名と金額のセルが緑色に塗りつぶされます。

2. 1つの取引とその影響を自動色分けする

取引データ表は、A列に取引内容、B列に取引番号、C・D列の「< B/S P/L >」にB/SやP/Lに関する科目名と金額、E・F列の「< C/F >」にC/Fに関する科目名と金額を入力します。

	A	B	C	D	E	F
1	<入門>					
2						
3						
4	取引データ表			入門科目選択		
5	1. 資本金200万円で会社を設立する					
6		番号	< B/S P/L >	< C/F >		
7		1	資本金	200	株式発行収入	200
8		1	現金預金	200		
11		2	事務用品費	15		

▲科目と金額の入力

「< B/S P/L >」には、必ず2つ以上の科目と金額を入力することが必要です。この科

目は、取引を2つの側面から考えます。たとえば、備品を現金で買った取引は、備品という資産の増加と現金という資産の減少の2つの科目です。

Sec.2 超簡単に入力する

本シミュレータでは、忙しい方を対象にしていますので、なるべく入力する手間を省いています。このために、科目を選択でき、転記する計算も自動化しています。

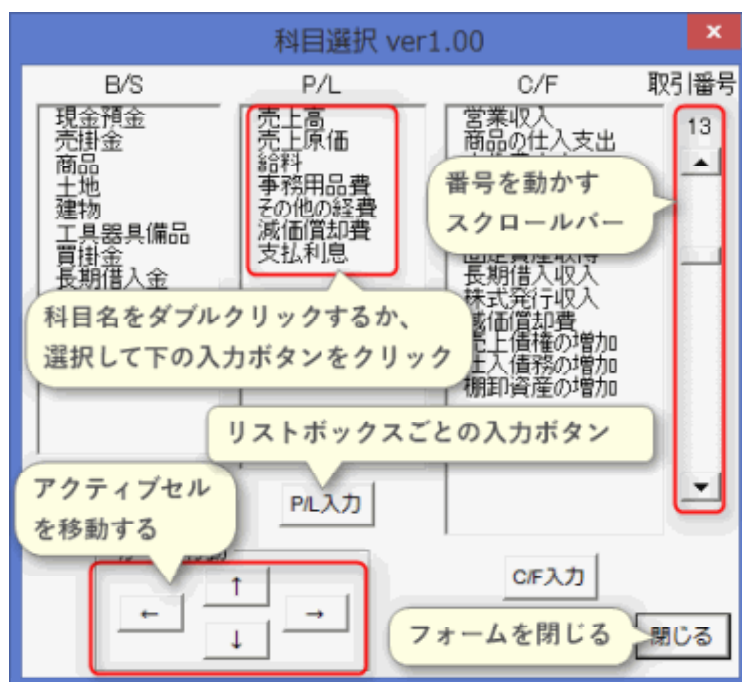
1. 科目名を入力しやすくする「科目選択」画面

C・E列の科目名には、H列以降にある財務3表の科目名を正確に入力することが必要です。財務3表の科目名をコピー&値の貼り付けすることもできますが、科目名を探すのが面倒です。

そこで、この科目名を選択して入力する「科目選択」画面を作成しました。この画面からアクティブセルに入力したい科目名を選択します。科目名はダブルクリックするか、選択してリストボックスの下にある入力ボタンをクリックします。

「科目選択」画面は表示したままでワークシートを操作することができます。このため、閉じずにまとめて科目名を入力するとよいでしょう。なお、アクティブセルの移動は、「科目選択」画面にあるカーソル移動ボタンをクリックするか、マウスでセルをクリックします。

また、見える化する取引を選択するためのスクロールバーもこの画面の右端に付けています。このスクロールバーはワークシート上のG列にあるスクロールバーと同じ機能があります。



▲「科目選択」画面

この画面は、ワークシートの左上にある [入門科目選択] または [科目選択] ボタンをクリックするか、「入門」なら [Ctrl]+[n]キー、「基本」なら [Ctrl]+[k]キーを押します。入門と基本では、表示する科目が異なります。

2. 科目名に応じて自動的に加算・減算する

P/L の売上総利益は売上高から売上原価を引いて売上総利益を求めるように、各利益は収益から費用を引いて計算しています。C/F の加算・減算は複雑ですので、C/F の右隣にある L・Q 列に「+／-」を入力し、「-」がある行は自動的に「+／-」を反転します。

③ C/F 直接法	前回まで	今回	合計	
営業CF				
営業収入	0	70	70	+
商品の仕入支出	-40	0	-40	-
人件費支出	0	0	0	
その他の営業支出	-25	0	-25	-
法人税等の				
営業CF計				
投資CF				
固定資産取得	-30	0	-30	-
財務CF				
株式発行収入	200	0	200	+
現金期末残高	105	70	175	C

▲C/Fの加算・減算

3. 転記作業を自動化する

取引データ表から財務3表への転記は、SUMIFS 関数を使って選択している取引番号を基準にして集計しています。この関数は、Excel2007 で新規に追加された関数です。

Chap.3 シミュレータを開く

本シミュレータは、答えを表示して内容を理解するワークシートと穴埋め用に一部が空欄になっているワークシートがあります。答えは「入門 1-A」のようにシート名の末尾が「A」のシート、科目が空欄は「入門 1-Q1」のように「Q1」のシート、転記先の「今回」列が空欄は「入門 1-Q2」のように「Q2」のシートがあります。

Sec.1 ブックとワークシートの構成

本書の ZIP ファイルにはワークシートを保護していない「財務3表シミュレータ.xlsx」ブックとワークシートを保護している「財務3表シミュレータ ws 保護.xlsx」ブックが入っています。空欄に入力する際は、保護のブックを使うと数式があるセルを書き換ええない

ので便利です。このブックは、次のワークシートによって構成されています。

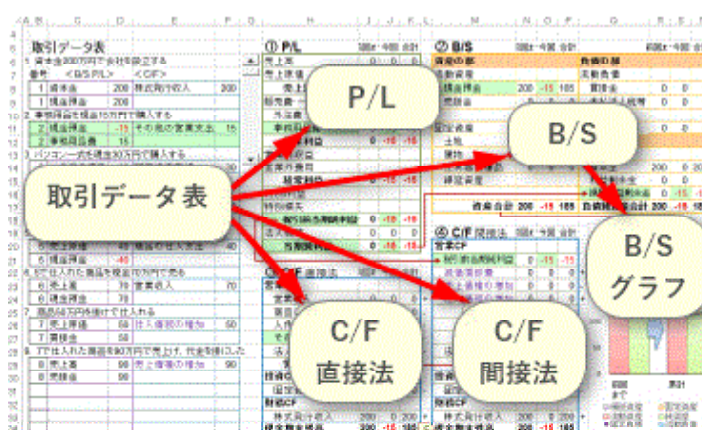
- ・ 入門 1-A ～基本・Q2 … 財務 3 表のシミュレータ
- ・ 科目表 … 「科目選択」画面に表示する科目の一覧表
- ・ 更新履歴 … 本ブックの更新履歴

Sec.2 シミュレータの構成

本シミュレータは、次のような機能を使って、取引を見える化して財務 3 表を理解できるようにしています。詳細は次の通りです。

1. 取引データを財務 3 表に反映する

本シミュレータでは、ワークシートの左側に入力した取引データを右方向に反映します。上から見ていくと、中央に P/L、右に B/S、右端の下に B/S のグラフがあります。下を見ると、中央に C/F 直接法、右に C/F 間接法があります。



▲全体構造

取引を反映した結果を見る際は、原則として上にある P/L → B/S → B/S のグラフの順に確認します。次に、下の中央にある C/F 直接法を見ます。必要に応じて C/F 間接法を確認します。

Tips. 全体を俯瞰するには

本シミュレータには取引と財務 3 表がありますので、ディスプレイのサイズによっては全体が 1 画面に表示されないことがあります（初期状態は倍率 100%）。このとき、全体を俯瞰するには、画面の倍率を縮小するとよいでしょう。この方法には、次の 2 つがあります。

(1) マウスのホイールボタンを使う

ホイールボタン（左ボタンと右ボタンの間にあるボタン）がマウスに付いていれば、[Ctrl] キーを押しながらホイールボタンを前もしくは後に動かします（前：拡大、後：縮小）。

(2) ズームスライダーを使う

Excel のウインドウ右下端にあるズームスライダーを操作すると、表示倍率を調整することができます。



▲画面を縮小して俯瞰する

ズームスライダーは、10 ～ 400 %まで倍率を変えることが可能です。倍率を変えるには、次のように操作します。

- ・ 大きく変えるために太い縦線のスライダーをドラッグする
- ・ 大きく変えるために細い横線のバーをクリックする
- ・ 微調整するためにスライダー右の [＋] ボタンをクリックして拡大、左の [－] ボタンで縮小する（クリックごとに 10%変わる）。



▲ズームスライダー

Advice 2つの C/F への対応

C/F 直接法と C/F 間接法は営業 CF の計算方法が異なり、直接法が家計簿のように現金の増加や減少をそのまま記録して計算し、間接法が税引前当期純利益から逆算して営業 CF を計算します。この外見上の違いは営業 CF の内訳だけで、営業 CF の金額は同じです。それ以外の投資 CF と財務 CF は内訳も金額もまったく同じです。

間接法の計算は紛らわしいので、C/F に慣れていない方は直接法のみを理解してください。営業 CF の内訳まで知る必要がない方は、間接法を意識する必要がありません。

2. 財務 3 表のつながりとは

財務 3 表のつながりを理解することが、財務 3 表を理解するための第一歩です。これには、次の 5 つがあります。ワークシート上は、金額を転記する際に矢印線、一致する金額

を線で結んでいます。B/S の「現金預金」と一番下にある C/F の「現金期末残高」のみを「c」を表示しています。

- (1) B/S の左と右の合計額が一致する
- (2) P/L 「当期純利益」を B/S 「繰越利益剰余金」に転記する
- (3) P/L 「税引前当期純利益」を C/F 間接法「税引前当期純利益」に転記する
- (4) C/F 直接法と間接法の営業 CF と CF の合計額が一致する
- (5) B/S 「現金預金」が C/F 「現金期末残高」が一致する

① P/L	前回	今回	合計	② B/S	前回	今回	合計	前回	今回	合計
売上高	0	0	0	資産の部				負債の部		
売上原価	0	0	0	流動資産				流動負債		
売上総利益	0	0	0	c 現金預金	200	-15	185	買掛金	0	0
販売費・一般管理費	0	0	0	売掛金	0	0	0	支払法人税等	0	0
外注費	0	0	0		0	0	0	固定負債		
事務用品費	0	15	15	固定資産					0	0
営業利益	0	-15	-15	土地	0	0	0	純資産の部		
営業外収益				建物	0	0	0	株主資本		
営業外費用								2. 当期純利益を転記する	0	0
経常利益	0	-15	-15					資本金	200	0
特別利益								利益剰余金	0	0
特別損失								繰越利益剰余金	0	-15
税引前当期純利益	0	-15	-15	資産合計	200	-15	185	負債純資産合計	200	-15
法人税等	0	0	0							
当期純利益	0	-15	-15							
				④ C/F 間接法						
				1. 左右で一致する						
				営業CF						
				税引前当期純利益	0	-15	-15			
				3. 税引前当期純利益を転記す						
				営業収入	0	0	0			
				商品の仕入支出	0	0	0			
				人件費支出	0	0	0			
				その他の営業支出	0	-15	-15			
				法人税等の支払	0	0	0			
				営業CF計	0	-15	-15			
				投資CF						
				固定資産取得	0	0	0			
				財務CF						
				株式発行収入	200	0	200			
				現金期末残高	200	-15	185			

▲財務3表の関連

※ 当期純利益と繰越利益剰余金の関係

本シミュレータでは第1期を想定していますので、「当期純利益＝繰越利益剰余金」です。2期目以降は、繰越利益剰余金に前期以前の利益が残りますので、2つの金額は同じではありません。「当期純利益の増減額 → 繰越利益剰余金の増減額」になります。

※ B/S の「現金及び預金」C/F における「現金」

B/S の「現金及び預金」は、すぐに支払うことができる手持ちの現金や普通預金・当座預金などです。

C/F の「現金」は、B/S の「現金及び預金」に3カ月以内の定期預金なども含みます。このため、C/F の「現金」と B/S の「現金及び預金」の期末残高はほぼ同じ金額ですが、実務上は「現金」がすこし大きいことがあります。

3. 取引ごとに色分けする

取引ごとの影響がわかるように、取引データ表の取引とその影響がある財務3表の科目名と金額を色分けします。色分けする金額は、選択している取引番号によって変わる「今回」の列のみです。

取引データ表				取引番号			
1. 資本金200万円で会社を設立する				売上高	0	0	0
番号 < B/S P/L > < C/F >				売上原価	0	0	0
取引番号「2」の取引を色分けする				売上総利益	0	0	0
2. 事務用品を現金15万円で購入する				販売費・一般管理費			
2 現金預金 -15	その他の営業支出	15		外注費	0	0	0
2 事務用品費 15				事務用品費	0	15	15
3. パソコン一式を現金30万円で購入する				営業利益	0	-15	-15
3 工具器具備品				営業外収益			
3 現金預金				営業外費用			
4. HP作成の外注費10万円で現金で支払う				特別利益			
4 外注費 10	その他の営業支出	10		特別損失			
4 現金預金 -10				税引前当期純利益	0	-15	-15
5. 商品40万円で現金で仕入れる				法人税等	0	0	0
5 売上原価 40	商品の仕入支出	40		当期純利益	0	-15	-15

▲取引ごとの色分け

なお、P/Lの営業利益や経常利益・各表の合計などは色分けしていません。

4. 取引ごとの金額を表示する

取引ごとに色分けする取引番号は、セル I3 に表示されます。この値は、取引データ表とP/Lの間にあるスクロールバーを使って変えます。各表の金額の列は次の通りです。たとえば、取引番号が「6」ならば、次のような値を表示します。

- ・「前回まで」列 … 取引番号「1」～「5」までの累計
- ・「今回」列 … 取引番号「6」のみの金額
- ・「合計」列 … 「前回まで」と「今回」の合計

取引データ表				取引番号			
1. 資本金200万円で会社を設立する				売上高	0	70	70
番号 < B/S P/L > < C/F >				売上原価	40	0	40
取引番号「2」の取引を色分けする				売上総利益	-40	70	30
2. 事務用品を現金15万円で購入する				販売費・一般管理費			
2 現金預金 -15	その他の営業支出	15		外注費			
2 事務用品費 15				事務用品費	0	15	15
3. パソコン一式を現金30万円で購入する				営業利益	-65	70	5
3 工具器具備品				営業外収益			
3 現金預金				営業外費用			
4. HP作成の外注費10万円で現金で支払う							
4 外注費 10	その他の営業支出	10					
4 現金預金 -10							
5. 商品40万円で現金で仕入れる							
5 売上原価 40	商品の仕入支出	40					

▲取引ごとの金額

※ スクロールバーを使って取引番号を変えた際に集計に少し時間がかかりますので、スクロールバーを操作した後はしばらく画面が変わるのを待ってください。

Chap.4 財務3表シミュレータの使い方

答えの「A」シートにある見える化された「取引→財務3表」を確認し、この理由を Chap.5 以降の解説で理解します。次に「Q1」シートに科目名の入力し、「Q2」シートに財務3表に金額を転記します。完全に理解するには、問題に解答するのが一番です。

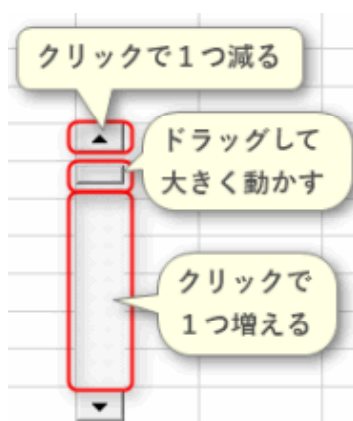
Sec.1 答えを見て理解する

最初に行うのが、「入門 1-A」シートにある取引ごとに財務3表への影響を確認することで、「取引→財務3表」を理解します。各取引は、次の Chap.5 で解説しています。

1. 自動色分けの取引の動かし方

初期の段階にするために、取引番号（セル I3）を 0 にします。このセルには数式を入力していますので、スクロールバーを使います。スクロールボックス（□）を上までドラッグするか、スクロールバーの [▲] ボタンを何度かクリックします。

ワークシートの G 列に配置したスクロールバーの機能は、Excel の下端や右端に表示されるスクロールバーと同じです。[▲]/[▼]ボタンをクリックすると 1 ずつ動き、スクロールボックス（□）をドラッグすると大きく変わります。このバーでは、[▲]/[▼]ボタンとスクロールボックス（□）の間をクリックすると 1 ずつ動きます。



▲スクロールバー

セル I2 に取引番号をキーボードから入力しても、取引番号を変えることができます。なお、入力された「番号」列（B 列）の最大値を超えた値に変えても、取引番号は変わりません。

2. シミュレータの制限

本シミュレータでは、スクロールバーを使って 0 ～ 50 まで変えることができます。財務3表が取引データ表を集計できる範囲は、100 行目までです。

Sec.2 科目名を入力して確認する

取引の内容を理解してどの科目になるかを理解するために、C・E 列に科目名を入力します。

1. 入力の手順

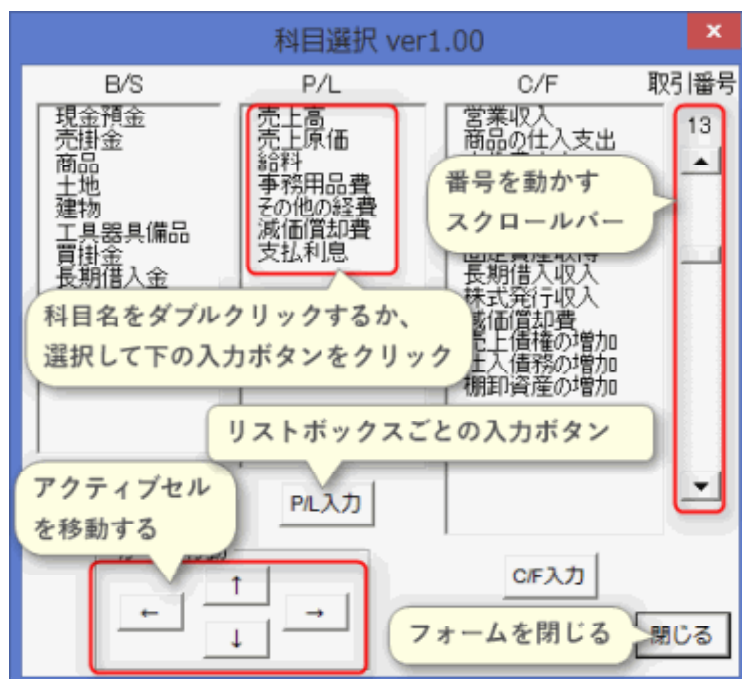
科目名を入力するには、次の手順を繰り返します。「科目選択」画面は表示しながらでもワークシートを操作することができます。このため、表示したままで使うとよいでしょう。

- (1) 入力したいセルをクリックして選択する
- (2) ワークシートの左上にある [入門科目選択] ボタン ([Ctrl]+[n] キー) または [科目選択] ボタン ([Ctrl]+[k] キー) をクリック (ショートカットキーでも可能)
- (3) 「科目選択」画面を使ってリストボックスにある科目を選択してセルに入力する
- (4) 「科目選択」画面にある矢印ボタンまたはマウスを使って次に入力するセルを選択する

2. 「科目選択」画面の機能

「科目選択」画面には、アクティブセルにリストボックスの科目名を入力する他に、アクティブセルを移動したり、スクロールバーを使って取引番号を動かしたりすることができます。

この画面の表示位置を変えるには、タイトルバーをドラッグします。なお、入門と基本では、表示する科目が異なります。



▲「科目選択」画面

3. 金額も入力するには

金額も入力する際は、D・F 列にある金額をクリアしてから入力します。セル範囲を選択して [Delete] キーを押すと、書式を消すことなく、セルに入力されているデータのみをクリアすることができます。

※ 取引データ表では減ったら「－」で金額を入力する

本シミュレータでは、科目名に応じて加算・減算して合計などを計算しています。このため、取引データ表では科目名に対して増加なら「＋」／減少なら「－」の金額を D・F 列に入力します。「－」の金額のみ、先頭に「－」を付けて入力します（Excel では「－」を半角で入力）。

例)

- ・現金が増加したら、「現金預金」の「＋」
- ・現金が減少したら、先頭に「－」を付けて「現金預金」の「－」
- ・売掛金が増加したら、「売上債権の増加」の「＋」（C/F 間接法）
- ・売掛金が減少したら、先頭に「－」を付けて「売上債権の増加」の「－」（C/F 間接法）

※「売上債権の増加」は C/F 間接法の減算科目ですので、転記すると「＋／－」が自動的に反転されます。

Sec.3 財務3表に転記する

取引を表す科目が財務3表のどの部分に反映されるかを理解するために、財務3表に金額を入力します。

1. 入力の手順

数値を対応する科目の「今回」列に入力します。(1) のように取引番号を入力する番号に合わせておくと色分けで見やすくなって「前回まで」列に前回までの累計が表示されるので便利です。

- (1) スクロールバーを使って、入力する取引の番号にする
- (2) 取引の金額を財務3表の「今回」列（J・O・S 列）に入力する
- (3) 正しく入力されているかを B/S の合計金額や C/F の営業 CF などで確認する
- (4) セル M3 やセル M7 にある [J ～ T 列 数値クリア] ボタンをクリックして、入力した数値のみをクリアする。[Ctrl]+[j] キーを押しても実行することができる。

2. 入力する順番を決める

結果的に取引の内容のすべてが財務3表に入力されれば問題はありませんが、入力する順番をあらかじめ決めておくと入力し忘れを防ぐことができます。おすすめの順番は、次の通りです。特に (3) を見落としがちなので注意しましょう。

- (1) P/L

- (2) B/S
- (3) P/L に数値がある場合は、税引前当期純利益と当期純利益の転記
- (4) B/S の合計金額が左右で一致するかの確認
- (5) C/F 直接法 → 間接法

3. 数値の「+／－」に注意

取引データ表にある数値を入力する際に＜ B/S P/L ＞はシンプルですが、＜ C/F ＞特に間接法の営業 CF が紛らわしいので注意が必要です。入力する数値の「+／－」は次の通りです。

(1) ＜ B/S P/L ＞ D 列

D 列にある数値は入力されたままの「+／－」を使います。

(2) ＜ C/F ＞ F 列

F 列にある「+／－」と C/F の科目の「+／－」（C/F の右隣の L・Q 列）を合わせて考えます。

- ・ L・Q 列が「+」の加算する科目 → ＜ C/F ＞ F 列のまま
- ・ L・Q 列が「－」の減算する科目 → ＜ C/F ＞ F 列の逆

(3) C/F の科目の「+／－」

L・Q 列にある「+／－」は、加算する項目か減算する項目かによって決まっています。

(2) に慣れましたら、L・Q 列を見ずに転記することに挑戦しましょう。

科目の加算／減算（「+／－」）は次の通りです。

直接法）現金の増加が「+」、減少が「－」です。

間接法）営業 CF の小計より上の科目が利益への加算が「－」、減算が「+」です。利益に対する計算の逆算と覚えましょう。それ以外が直接法と同じです。たとえば、次のように考えます。

- ・ 減価償却費 … 利益に対して減算する科目なので「+」
- ・ 売上債権の増加 … 売上による債権なので「売上」と考えて P/L 上で利益の加算、つまり「－」

④ C/F 間接法	合計	
営業CF		
→ 税引前当期純利益	660	
減価償却費	10	+
支払利息	30	+
その他の非資金損	8	+
売上債権の増加	-400	-
棚卸資産の増加	-150	-
仕入債務の増加	0	+
その他の負債の増加	3	+
小計	161	
利息の支払額	-30	-
法人税等の支払	-400	-
営業CF計	-269	

利益に対する
「+/-」
の逆

小計以下は、
直接法と同じ

▲C/F間接法の「+/-」

Chap.5 「入門 1」の取引の解説

使用：【「入門 1-A」シート】

「入門 1-A」シートにある取引を解説します。スクロールバーを使って取引番号を解説に合わせると、ワークシート上でも科目名や財務3表への転記を確認することができます。まず、次の考え方を参照してください。

<考え方>

1.科目名と増減の内容

(1) < B/S P/L > C・D 列

- ・ 2つ以上の科目が必要
- ・ 実体がある物の増減を考える

現金を受け取ったら現金の増加、支払ったら現金の減少、備品を購入したら備品の増加です。

- ・ 目的や用途を考える

インターネット接続料や人件費のように形がない物については、目的や用途から科目を付けます。前者なら通信費、後者なら給料手当の増加です。

(2) < C/F > E・F 列

直接法) 現金の増減があれば、その内容を表す科目を付けます。

間接法) 営業 CF かどうかで区別し、次のように科目を付けます。

- ・ P/L 関連であり非資金の収益・費用には科目を付ける (営業 CF)
- ・ B/S 関連の現金の増減は直接法と同じ (投資 CF・財務 CF)

2. 財務3表への転記

(1) < B/S P/L >

収益と費用の科目は P/L、資産は B/S の左、負債と純資産は B/S の右に転記します。＜ B/S P/L ＞ D 列に付けた「+ / -」をそのまま転記します。

(2) ＜ C/F ＞ CF の区分

直接法) 次のように転記します。

- ・ P/L 関連 → 営業 CF
- ・ B/S の左 (売掛金・受取手形・商品以外の資産) → 投資 CF
- ・ B/S の右 (負債と純資産) → 財務 CF

間接法) 営業 CF のみ直接法と異なり、次のように転記します。

- ・ P/L 税引前当期純利益 → 営業 CF
- ・ 非資金の収益・非資金の費用 → 営業 CF

(3) ＜ C/F ＞ の「+ / -」

直前の Sec である Chap.4 Sec3. を参照してください。

(4) 転記の確認

正しく転記されていれば、ワークシートで線を引いている B/S の左右の合計、C/F 直接法と間接法の営業 CF、「c」を付けた C/F の現金期末残高と B/S の現金預金が同じ金額になります。

Sec.1 資本金を出して会社を設立する

会社を設立するには、資本金を出すことが必要です。ここでは、次の取引を解説します。

★ 取引「1. 資本金 200 万円で会社を設立する」

1.科目名と増減の内容

出資では、お金を出す立場で考えると現金の減少になりますが、会社の立場で考えると現金の増加になります。

(1) ＜ B/S P/L ＞ C・D 列

現金による出資では会社の現金が増えますので、「現金預金」が増えます。この現金の用途は会社の資本ですから、「資本金」が増えます。2 つとも + 200 です。

(2) ＜ C/F ＞ E・F 列

直接法) 現金が増加しますので科目を入力します。現金増加の原因は出資ですので科目名「株式発行収入」を使い、発行収入の増加 → + 200 です。

間接法) 現金出資 → B/S の資本金による現金の増減ですので、直接法と同じ科目を入力します。

※ 直接法と間接法ともに同じ科目の場合は 1 つの科目を入力します。自動的に 2 つの C/F に転記されます。

Tips. C/F の科目は

直接法では現金収支記録のイメージで現金が増減する取引のみを記録します。間接法では現金が増減しない非資金の収益と費用を営業 CF に記録します。投資 CF と財務 CF は直接法と間接法が同じです。

2. 財務3表への転記

(1) < B/S P/L >

「現金預金」は資産（B/S 左）、「資本金」は純資産（B/S 右の下）ですので、2 つとも B/S に転記します。P/L の科目がありませんので、税引前当期純利益や当期純利益の転記は不要です。

(2) < C/F >

「株式発行収入」は資本金（B/S の右）→ 財務 CF に転記し、現金の増加 → + 200 です。

(3) つながりの確認

財務3表のつながりについては取引ごとに転記または一致しますので「今回」列がつながり、それらを累計した「前回まで」「合計」列もつながります。

・ B/S の左右のバランス

B/S の左に「現金預金」+ 200、右に「資本金」+ 200 ですので、左右の合計が一致します。

・ C/F 直接法と間接法の一致

2 つとも財務 CF に + 200 で一致します。この2つの表は、営業 CF のみ内訳が異なります。

・ B/S と C/F の現金の一致

C/F の現金期末残高と B/S の「現金預金」が2 つとも + 200 で一致します。

Sec.2 備品を現金で購入する

パソコンや机のように比較的高額になって長期間使える物は、資産として「工具器具備品」にします。

★ 取引「2. パソコンや机を現金 30 万円で購入する」

1.科目名と増減の内容

(1) < B/S P/L > C・D 列

「工具器具備品」の + 30 で計上します。この備品のように1年を超えて利用する物は固定資産になります。現金払いですので、「現金預金」が - 30 です。

(2) < C/F > E・F 列

直接法) 固定資産のために現金が減っていますので (B/S の左→投資 CF)、科目を入力します。科目は「固定資産取得」、取得の増加ですので + 30 です。

間接法) 固定資産は B/S であって現金の減少ですので、直接法と同じです。

2. 財務3表への転記

(1) < B/S P/L >

「工具器具備品」は B/S の固定資産です。「現金預金」とともに B/S に転記します。

(2) < C/F >

「固定資産取得」は投資 CF に転記します。現金が減っていますので - 30 です。

(3) つながりの確認

- ・ B/S の左右のバランス … 左に－ 30 と＋ 30 で、右が変わらず
- ・ C/F 直接法と間接法の一致 … 2 つとも投資 CF に－ 30
- ・ B/S と C/F の現金の一致 … 2 つとも－ 30

Sec.3 事務用品を現金で購入する

事務用品は実体がある物ですので「事務用品」という資産とも考えられますが、少額であり長期間使えない物は P/L の費用にします。

★ 取引「2. 事務用品を現金 15 万円で購入する」

1.科目名と増減の内容

(1) < B/S P/L > C・D 列

事務用品の現金購入は、事務用品が増えて、現金が減ります。「事務用品費」が＋ 15、「現金預金」が－ 15 です。

(2) < C/F > E・F 列

直接法) 現金が増減する取引に科目を入力します。事務用品費 → P/L の費用 → 営業 CF です。仕入や人件費以外の経費には「その他の営業支出」を使います。支出が増えますので、金額は＋ 15 です。

間接法) P/L 関連の現金の収支には、科目を入力しません。

2. 財務 3 表への転記

(1) < B/S P/L >

「事務用品費」は P/L の費用に、「現金預金」は B/S の資産に転記します。P/L の収益費用が変わると税引前当期純利益と当期純利益が変わりますので、前者を C/F 間接法の税引前当期純利益、後者を B/S の繰越利益剰余金に転記します。この利益の流れはワークシート上に矢印線で表示していますので、以下「P/L の利益を B/S と C/F に転記します」と略します。

(2) < C/F >

直接法) 「その他の営業支出」は P/L に関連しますので、営業 CF に転記します。現金の減少 → － 15 になります。

(3) つながりの確認

- ・ P/L の利益の転記

P/L 税引前当期純利益を C/F 間接法に、P/L 当期純利益を B/S の繰越利益剰余金に転記します。

- ・ B/S の左右のバランス

左に「現金預金」－ 15 と、P/L から転記した右の繰越利益剰余金が－ 15 で一致します。

- ・ C/F 直接法と間接法の一致

直接法の営業 CF は－ 15、P/L から転記した税引前当期純利益が－ 15 で一致します。

- ・ B/S と C/F の現金の一致 … 2 つとも－ 15

以下、(3) つながりの確認の説明を省きます。

Tips. P/L の費用と B/S の資産の区別

事務用品は費用、パソコンや机は資産にしました。この費用と資産の境界は理論的には使用価値が1年以上かどうかですが、実務上は税法の規定によって決めることが多いです。この規定では、資産の種類や取得した金額が基準です。

Tips. 資産と負債の流動／固定

資産と負債の流動／固定は、原則として1年を超えて利用または期限が来るかどうか区別します（ワン・イヤー・ルールという）。1年以内が流動、1年を超えると固定です。

Sec.4 給料を現金で支払う

給料の支払いは費用です。

★ 取引「4. アルバイトに給料10万円を現金で支払う」

1.科目名と増減の内容

(1) < B/S P/L > C・D 列

給料を現金で支払いましたので、P/L の「給料」が+ 10、B/S の「現金預金」が－ 10です。

(2) < C/F > E・F 列

直接法) 現金が増減する科目を入力します。給料は P/L 関連 → 営業 CF です。給料には「人件費支出」を使い、支出が増えますので+ 10です。

間接法) P/L 関連の現金の収支には、科目を入力しません。

2. 財務3表への転記

(1) < B/S P/L >

「給料」は P/L の費用に、「現金預金」は B/S の資産に転記します。P/L の利益を B/S と C/F に転記します。

(2) < C/F >

直接法) 「人件費支出」は営業 CF に転記し、現金が減るので－ 10です。

Sec.5 商品を現金で仕入れる

仕入れた際は「売上原価」または「当期商品仕入高」に計上します。ここでは、「売上原価」を使います。

★ 取引「5. 商品40万円を現金で仕入れる」

1.科目名と増減の内容

(1) < B/S P/L > C・D 列

仕入代金を現金で支払いましたので、P/L の「売上原価」に+ 40、B/S の「現金預金」に－ 40です。

(2) < C/F > E・F 列

直接法) 現金が増減するので科目を入力します。仕入の費用は「商品の仕入支出」を使い、仕入支出の増加 → + 40です。

間接法) P/L 関連の現金の収支には、科目を入力しません。

2. 財務3表への転記

(1) < B/S P/L >

「売上原価」は P/L の費用に、「現金預金」は B/S の資産に転記します。P/L の利益を B/S と C/F に転記します。

(2) < C/F >

直接法) 「商品の仕入支出」は P/L → 営業 CF に転記し、現金の減少 → - 40 です。

Sec.6 現金で売り上げる

会社設立以来の現金の増加です。今までの取引とは現金の増減が逆になりますので注意しましょう。

★ 取引「6. 5 で仕入れた商品を現金 70 万円で売る」

1.科目名と増減の内容

(1) < B/S P/L > C・D 列

売上代金を現金で受け取りましたので、P/L の「売上高」に + 70、B/S の「現金預金」に + 70 です。

(2) < C/F > E・F 列

直接法) 現金が増減しますので科目を入力します。売上には「営業収入」を使い、売上の増加 → + 70 です。

間接法) 現金による売上の収入は P/L 関連であっても非資金ではないので、科目を入力しません。

2. 財務3表への転記

(1) < B/S P/L >

「売上高」は P/L の収益に、「現金預金」は B/S の資産に転記します。P/L の利益を B/S と C/F に転記します。

(2) < C/F >

直接法) 「営業収入」は P/L → 営業 CF に転記し、現金の増加 → + 70 です。

Sec.7 掛けで仕入れる

現金が動かない掛け仕入です。掛けで仕入れた場合は科目「買掛金」を使います。

★ 取引「7. 商品 50 万円で掛けで仕入れる」

1.科目名と増減の内容

(1) < B/S P/L > C・D 列

仕入代金を掛けで支払いましたので、P/L の「売上原価」に + 50、B/S の「買掛金」に + 50 です。

(2) < C/F > E・F 列

直接法) 現金が増減しませんので科目を入力しません。

間接法) 仕入は P/L の費用であり、非資金ですので科目を入力します。買掛金は仕入によって発生した債務（お金を払う義務）ですので、「仕入債務の増加」 + 50 とします。

Tips. C/F 間接法の科目の入力

C/F 間接法では、P/L の税引前当期純利益から逆算して、営業 CF を計算します。このため、「現金の増減がないのに、収益と費用が計上された」非資金の科目は科目を入力して転記します。

2. 財務 3 表への転記

(1) < B/S P/L >

「売上原価」は P/L の費用に、「現金預金」は B/S の資産に転記します。P/L の利益を B/S と C/F に転記します。

(2) < C/F >

間接法)「仕入債務の増加」は非資金の P/L 関連ですので営業 CF に転記し、非資金の費用 → + 50 です。

Tips. C/F 間接法での営業 CF の+/-

C/F 間接法の営業 CF に転記した際の「+/-」が紛らわしいので注意が必要です。直接法では「現金が増加 → +」(減少なら逆)だけで決まりますが、間接法の営業 CF では「税引前当期純利益から非資金を抜き出す」と考え、利益の計算の逆、つまり「非資金の費用 → +」(収益なら逆)として転記します。

Sec.8 掛けで売り上げる

現金が動かない掛け売上(収益)です。掛けで売れた場合は科目「売掛金」を使います。

★ 取引「8. 7 で仕入れた商品を 90 万円で売上げ、代金を掛にした」

1. 科目名と増減の内容

(1) < B/S P/L > C・D 列

売上代金を掛けにしましたので、P/L の「売上高」に+ 90、B/S の「売掛金」に+ 90 です。

(2) < C/F > E・F 列

直接法) 現金が増減しませんので科目を入力しません。

間接法) 売上は P/L の収益であり、非資金ですので科目を入力します。売上によって発生した債権(お金をもらう権利)ですので「売上債権の増加」を使い、+ 90 です。

2. 財務 3 表への転記

(1) < B/S P/L >

「売上高」は P/L の収益に、「売掛金」は B/S の資産に転記します。P/L の利益を B/S と C/F に転記します。

(2) < C/F >

間接法)「売上債権の増加」は非資金の P/L 関連 → 営業 CF に転記し、非資金の収益 → - 90 です。